



THE JAPAN SOCIETY OF
HEALTH EVALUATION AND PROMOTION

日本総合健診 医学会

ご案内と活動紹介

2019年度版



| 理事長挨拶



一般社団法人
日本総合健診医学会
理事長

福武 勝幸

一般社団法人日本総合健診医学会は昭和48年(1973年)に設立された、国民の疾病予防、健康維持・増進を通じて国民の健康の保持と増進に貢献することを使命とする学術団体です。総合健診をはじめとする各種の健康診査、健康評価法を開発し、その普及を図るとともに健康予測の研究などを行い、健康に係るエビデンスを蓄積して、健康教育に有効に活用することでその使命を果たすことを目的としています。

特定健診開始等を受けて、日本医学健康管理評価協議会が設立され、専門医については人間ドック健診専門医と名称が統一されるなど、関係団体間の協力体制の確立が進んでいます。2017年度には当学会を含む健診事業に関わる4団体が連携して、健診団体連絡協議会を発足させて健診の質の向上を目指しています。当学会は信頼性が高く高度に管理された総合健診の発展に向けて、健診の受託に関する実務とともに、健診の質の向上のための専門医制度、精度管理調査事業や施設認定事業の充実と疾病予防・健康維持・増進のためのエビデンス確立などの学術活動を主軸にし、関係行政機関、健診関連団体や受診者団体はもとより、脳心血管病予防に関する包括的リスク管理合同会議などの各専門分野の学会やその連携組織とも積極的に協力して総合健診の一層の発展を目指します。

私は理事長の職に就いて3期目を迎えることになりましたが、多くの皆様からご支援をいただきましたことに感謝申し上げます。一昨年は、長年に亘り当学会を率いてくださいました日野原重明名誉理事長を失い、当学会としては目指す道をさらに強い決意の下で推進していくことが何より重要と考えています。私が健診医として30余年の間に学び考えてきたことをもとに、臨床検査専門医ならびに血液専門医としての経験を活かし、関係する学会との連携を強化するとともに、総合健診そして予防医学の更なる発展へ向けて活動してまいりますので、引き続き関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

日本総合健診医学会の歴史



本学会は昭和48(1973)年に日本自動化健診システム研究会として発足し、現在に至るまで総合健診の確立に邁進してきました。

学会の歴史

- 昭和48(1973)年 日本自動化健診システム研究会発足
- 昭和50(1975)年 日本自動化健診学会へ改称
- 昭和60(1985)年 日本総合健診医学会へ改称
- 平成16(2004)年 有限責任中間法人 設立
- 平成21(2009)年 「一般社団法人」へ法人名変更

会長・理事長

年 度	氏 名
昭和48(1973)年～昭和61(1986)年	櫻田 良精
昭和62(1987)年～平成 8(1996)年	日野原重明
平成 9(1997)年～平成18(2006)年	田村 政紀
平成19(2007)年～平成27(2015)年	日野原重明
平成27(2015)年～現在	福武 勝幸

2019・2020年度 理事・監事

役職名	氏 名	所 属
理 事 長	福武 勝幸	東京医科大学 臨床検査医学分野 特任教授
副理事長	吉田 勝美	産業医科大学 産業衛生教授
副理事長	菱沢 利行	医療法人藤和会藤間病院 理事長
副理事長	西崎 泰弘	東海大学医学部健康管理学 領域主任教授 東海大学医学部付属東京病院 病院長 健診センター長
理 事	田内 一民	順天堂大学医学部 大学院医学研究科 臨床病態検査医学 特任教授
理 事	大橋 秀一	健康保険組合連合会大阪中央病院 院長
理 事	天野 隆弘	国際医療福祉大学 学事顧問、教授 医療法人財団順和会山王メディカルセンター 名誉院長
理 事	山上 孝司	一般財団法人北陸予防医学協会 施設長
理 事	加藤 秀平	医療法人順秀会 理事長

役職名	氏 名	所 属
理 事	林 務	独立行政法人労働者健康安全機構関東労災病院 臨床検査科・輸血部部長
理 事	増田 勝紀	聖路加国際病院附属クリニック センター長
理 事	小松 淳子	日本赤十字社医療センター 健康管理科 部長
理 事	高橋 敦彦	日本大学短期大学部 教授 食物栄養学科学科長
理 事	高木 重人	船員保険健康管理センター センター長
理 事	鈴木 隆史	医療法人財団荻窪病院 血液凝固科 部長 東京医科大学 臨床検査医学分野 准教授
監 事	吉川 博通	住友病院健康管理センター 顧問
監 事	江幡 良晴	一般財団法人松翁会診療所 大手町健診プラザ 特別顧問医
監 事	小川 哲平	医療法人社団徳寿会 相模原中央病院 顧問

| 優良総合健診施設

<優良総合健診施設とは>

近年、急速な少子高齢化や国民生活の意識の変化等から、健診をはじめとする予防医学に対する社会の関心が高くなっています。より一層環境の整った信頼できる適切な施設での健診が求められています。本学会では、学会設立当初の昭和49年(1974年)から各施設の健診設備、健診システム、受診者対応、安全対策、感染対策などを中心に本学会に所属する施設が社会的に信頼される医療水準で運営されているかどうかを審査し、「質」の保証された施設には「優良総合健診施設」として認定をおこなっています。本年4月現在、全国272施設が認定されていますが、認定にあたっては本学会の定める「優良総合健診施設認定基準」を充たす必要があります。



1. 本学会の会員であること。
2. 施設が独立しており、一般診療受診者と区別されて総合健診が行なわれていること。
3. 本学会の規定する基準検査項目が総合健診受診者に対して行われていること。
4. 総合健診全体の品質管理が行なわれていること。
5. 受診者全員に対して当日面接を行い、健診結果の説明と生活指導を行うことができるこ
6. 一般社団法人健康評価施設査定機構に入会していること。

※各基準の具体的な内容については学会ホームページをご参照ください。

<優良総合健診施設認定を受けるメリット>

1 健康保険組合連合会(以下「健保連」と)との指定契約に参加することができます。

健保連加盟の健保組合と個別契約を行わなくても、ご施設の設定した料金で総合健診受診者の受入れができます。

2 健診施設としての信頼性が高まります。

信頼性が向上することにより、健保連に加盟していない健保組合とも個別契約を結びやすくなります。

3 「質の高い健診」の提供により、受診者の安心につながります。

健診専用のフロアーや当日面接の実施、精度管理調査への参加など、本学会の厳しい条件をクリアすることによって「健診の質」が保証され、受診者の安心・安全を確保できます。

<実地審査>

新規認定にあたっては、本学会優良総合健診施設認定委員または実査委員が実際に施設を訪問し、実地審査(実査)を行っています。実査では委員が受診者の目線で現場を確認し、受診者が安心して健診を受けられる体制になっているか、環境が整っているかチェックします。

また、認定を取得した施設に対しても、認定後、定期的に実査を行います。

実査を受けていただくことにより、優良認定基準を改めて確認し、より良い総合健診施設を目指していただく手助けをしています。

<認定制度への第三者認証について>

優良総合健診施設の認定事業を行うにあたり第三者による評価(認証)を受け、その質を担保することが重要であることから、本学会では、一般社団法人健康評価施設査定機構に、本学会が実施する認定制度をその判断基準を含めて開示し、制度全体が適正であるという認証を受けています。本認定制度による認定の取得を希望する施設は、本認定制度を利用するため査定機構に入会している必要があります。

優良総合健診施設認定委員会委員長より

優良総合健診施設認定委員会では、実地審査が客観的にかつ限られた時間内で、効率的に実施されるように調査票を改訂し、審査内容を明確にしています。よって迅速な審査を行うために、各施設では事前に必要書類等の準備をお願いしています。また以前より各項目の評価基準の統一を図って参りましたが、研修会、実査講習会などにご出席されることにより、各健診施設の更なる質の向上のために各施設と各職域で、会員が共通認識を持つことが大切と考えますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



順天堂大学医学部 大学院医学研究科
臨床病態検査医学 特任教授

田内 一民

I 精度管理調査事業

精度管理
調査
とは

近年、医学・医療の進歩や多様化に伴い、より正確で速い検査の必要性と施設間の検査結果の標準化が求められ、結果に対する保証として精度管理事業の意義はより一層増大してきました。標準化された検査結果を用いて科学的根拠に基づく診断、治療を実践する以上、精度管理は医学・医療にとって必要不可欠な事業です。

本学会では、昭和48年(1973年)の創立当時より精度管理委員会を設置し、会員施設に対し独自の外部精度管理調査を続けて、信頼される総合健診を実現するために力を注いできました。この精度管理調査には本年4月現在367施設が参加しています。

また、平成20年(2008年)からは、従来より実施していた検体検査に加えて、画像検査(胸部単純X線検査)、生理機能検査(心電図検査)の調査も始まりました。精度管理調査は現在、年4回実施していますが、第1回は画像検査(胸部単純X線検査)、生理機能検査(心電図検査)、第2回～第4回は特定健診の項目を中心に3濃度ないし2濃度の検体を用いた検体検査の調査を行っています。

調査項目及び実施スケジュール

実施時期	試料	項目
～第1月回	CD CD	胸部単純X-P 安静時心電図
第2回～第4月回	生化学、脂質、CRP HbA1c 尿 血算	TG, TC, HDL-C, LDL-C, AST (GOT), ALT(GPT), γ-GT, Glu, TP, ALB, ALP, LD, BUN, Cre, UA, A/G比, CRP HbA1c 尿蛋白, 尿糖, 尿潜血 RBC, Hb, Ht, WBC, MCV, MCH, MCHC, PLT
第3回～第7月回	生化学、脂質、CRP 便 血算	TG, TC, HDL-C, LDL-C, AST (GOT), ALT(GPT), γ-GT, Glu, TP, ALB, ALP, LD, BUN, Cre, UA, A/G比, CRP 便潜血 RBC, Hb, Ht, WBC, MCV, MCH, MCHC, PLT
第4回～第9月回	生化学、脂質、CRP HbA1c 尿 血算	TG, TC, HDL-C, LDL-C, AST (GOT), ALT(GPT), γ-GT, Glu, TP, ALB, ALP, LD, BUN, Cre, UA, A/G比, CRP HbA1c 尿蛋白, 尿糖, 尿潜血 RBC, Hb, Ht, WBC, MCV, MCH, MCHC, PLT

精度管理委員会委員長より

検査は疾患・病態の診断、治療とその後の経過観察に欠かせない重要な役割を担っています。健診においては症状のない受診者が対象となるため、検査の占める割合はより大きなものと言えましょう。精度管理は、施設の検査データが受診者・社会から信頼される水準を維持しているかを客観的に評価できる大切なツールです。検査室内で日々行われる内部精度管理とともに施設を横断して自施設のデータを確認し足元を見直すために行われるのが外部精度管理です。本委員会では年4回の調査結果をフィードバックし、受診者が全国どこでも安心して総合健診を受けることができるよう多くの施設に参加していただきたいと思っています。



医療法人財団荻窪病院 血液凝固科 部長
東京医科大学 臨床検査医学分野 准教授
鈴木 隆史

I 受診者統計

本学会では、一次予防的機能と二次予防的機能を明確にするため、判定基準の妥当性や、健診精度の見直し、健診機能の評価や加盟施設全体の平均値との比較を行う受診者統計指標を作成しています。

受診者統計A(総合健診)と受診者統計B(特定健診)の2種類の受診者統計事業を、2015年度からこれまで実施していましたが、2018年度の調査における参加施設数はAが258施設、Bが224施設、総受診者数は、Aが211万人、Bが314万人でした。

受診者統計Aより、総合健診項目における全国の「要再検」率、「要精検・要治療」率、「治療中」率がわかりますので、各施設の精度管理に活用することができます。また、受診者統計Bより、特定健診の問診結果や検査結果の全国値がわかりますので、データヘルス計画に活用していただきたいと思います。

エビデンス指標委員会委員長より

受診者統計事業も、今年で5回目となります。国は、企業に働き方改革とともに健康経営を求め、健保組合にデータヘルス計画の実施を求めていました。今後は、事業所と健保が一緒に進めるコラボヘルスが盛んになってくると思います。この統計事業が、それを後押しするものになるように、また各施設がこの結果を活用しやすいように集計結果の示し方を工夫して行きたいと思っています。



一般財団法人北陸予防医学協会 施設長
山上 孝司

| 人間ドック健診専門医

人間ドック
健診専門医
とは

本学会では、平成17年(2005年)に専門医制度を発足させましたが、平成24年(2012年)から日本
人間ドック学会と合同で人間ドック健診専門医制度(新制度)の運営を開始し、本年4月現在両学会で合
わせて1856名が人間ドック健診専門医として認定されています。現在、人間ドック健診専門医制度委員
会では日本専門医機構の新しい整備基準に沿った規定整備や研修環境の整備をすすめ、人間ドック健診
専門医が日本専門医機構の認定を取得できるように準備を進めています。

今後も人間ドック健診専門医の使命である、国民の疾病予防、重症化予防、健康増進を達成するために、
人間ドック健診専門医の質の向上を図ることを目的とした事業を維持・運営してまいります。

専門医制度委員会委員長より

専門医の方々は、将来にわたって人間ドック健診の主要な役割を果たしていただくコアの人材です。
一般社会に人間ドック健診の質を保証する重要な役割を担って頂いています。専門医は、健診の受診
者は言うまでもなく、人間ドック健診を依頼いただく健保組合、企業に対しても、人間ドック健診の質
とレベルを保証する重要な役割を果たしていきます。このように重要な役割を果たしていただく専門
医数の更なる増加、育成を目指すため、暫定研修施設・暫定指導医の委嘱も開始しました。さらには、
専門医になられた方が申請をへて人間ドック健診を研修する方々の指導医となっていただきます。

受験資格を取得した会員の一人でも多くの方々に専門医試験を受けて頂き、専門医資格を取って
頂きたいと思います。人間ドック健診が今後とも益々発展するよう、皆さんには是非とも専門医になって
頂きたいと願っております。



国際医療福祉大学医学部 学事顧問、教授
医療法人財団順和会山王メディカルセンター
名誉院長
天野 隆弘

| 総合健診指導士・総合健診業務管理士

総合健診
指導士
・
総合健診
業務管理士
とは

本学会では平成17年(2005年)に総合健診指導士の認定を、翌平成18年(2006年)に総合健診業
務管理士の認定を開始しました。総合健診指導士とは、総合健診施設に勤務する医師以外の医療スタッフ
の能力を啓発し、総合健診の健康指導と支援の質の向上を図ることを目的とした資格です。また、総合健診
業務管理士とは、総合健診施設に勤務する医療職以外の事務系職員の能力を啓発し、総合健診システム全
体を支えるマネージメントの質の向上を図ることを目的とした資格です。両資格とも、勤務形態(常勤/非常勤)
は問いません。

本年4月現在で総合健診指導士は169名、総合健診業務管理士は103名が認定されています。資格取
得者は、本学会優良認定施設の実査委員としても活躍しており、認定施設の発展に貢献しています。

指導士・業務管理士委員会委員長より

総合健診のスペシャリストを育む本学会のユニークな認定制度です。われわれの総合健診の仕事にや
りがいを感じ、さらに地域社会や職域の健康づくりにも積極的に貢献して協働したいと未来志向を目指す
人に最適な資格と言えます。優良総合健診施設認定の取得および認定更新、受審する側、実査する側の双
方において、これらの認定資格者は重要な役割を有しています。

委員会では、「指導士」の様々な専門職種との連携を共有・強化するために、関連学会・団体との認定更
新単位の相互乗り入れを協議し進めています。現在、日本臨床栄養協会(NR・サプリメントアドバイザー)
との連携が実現しています。一方、「業務管理士」では、職域での健康経営や健診マネジメント領域、およ
び地域健康増進のさらなる推進者となる人材と活動を望んでいます。これら二つの資格が互いに切磋琢磨
して両輪の輪となり、社会から一層信頼を受け予防医学の質を高める原動力となることを期待しています。



医療法人社団
富士いきいき病院・
健康サポートセンター 顧問
加瀬澤 信彦

| 国際健診学会

国際健診学会は1971年に発足し、第1地域(米国)、第2地域(欧州)、第3地域(アジア、オーストラリア、太平洋諸島)の3つの
地域に分けられましたが、近年では第3地域での活動が中心となっています。現在国際健診学会のPresident Emeritusには本
学会前副理事長の久代登志男先生が就任されています。また、第3地域事務局は本学会事務局内に置かれています。

学術大会は2年毎に開催されます。国際健診学会の今後の予定は、国際健診学会HP(<http://www.ihepa-region3.org/>)を
ご参照ください。

表彰制度 award

日野原重明賞

第20回 2019年度受賞者



氏名	所属
多田羅 浩三 先生	日本公衆衛生協会 会長

日野原重明賞は予防医学において長期にわたり貢献された日野原重明先生の功績をたたえ設立された賞で、我が国の予防医学の発展に貢献された方を顕彰する制度です。

優秀論文賞

第32回 2018年度受賞者



	筆頭執筆者名	論文タイトル
和文	真殿 亜季先生	特定保健指導の積極的支援介入前後の生活習慣の変化が減量効果に及ぼす影響
英文	護山 健悟先生	HDL cholesterol subclasses are associated with serum uric acid in Japanese men

優秀論文賞は、本学会の学術誌に掲載された原著論文の中から、総合健診の発展及び学術的見地から優れた英文および和文論文を顕彰する制度です。

若手奨励賞/大会長奨励賞

2019年度若手奨励賞・第47回大会長奨励賞



	氏名	演題名
若手奨励賞	宮下 みゆき先生	女性における月経周期と閉経によるヘモグロビン値や鉄代謝の推移
大会長奨励賞	眞家 亜純先生	健康診断受診者を対象としたヘルスリテラシー尺度(健康診断用短縮版HLS-EU-Q47)の作成
	川崎 潤一先生	腹部CT画像を利用した骨粗鬆症スクリーニングの検討
	佐藤 千夏先生	当センター46年間における肥満・心房細動の経年変化と両者の関連について
	吉原 康了先生	胃X線検査における圧迫用フトン「胃Makra」の効果検証

若手会員(40歳未満)の活性化を図る目的から、学術大会の一般演題を対象に若手奨励賞の表彰を行っています。応募された大会抄録より5題が選出され、大会時の発表をもとに若手奨励賞(1名)、大会長奨励賞(4名)を審査決定いたします。

研究奨励事業

本学会では、会員の学術水準の向上を支援するため、公募研究事業を行っています。採択された研究事業には、学会より1件当たり100万円を上限として助成を行っています。研究事業の成果は学術大会や学会誌において発表され、会員全体の学術向上に貢献しています。

2018年度学術奨励

氏名	研究課題
谷 樹 昌先生	脳心血管病予防のための食事管理の重要性を明確にするためのエビデンス構築:魚摂取量と心血管代謝リスク(Cardio-metabolic risk)との関係を検討する横断試験・縦断試験

| 学会誌の刊行

本学会では、昭和49年(1974年)に学会誌を創刊し、現在『総合健診(英文誌名:Health Evaluation and Promotion)』を年6回刊行しています。経験豊富な各分野の専門スタッフからなる編集委員会を組織し、予防医療を代表する学術雑誌として、総合健診、産業保健、学校保健などに関する最新知識を提供する、質の高い誌面作りに努めています。また、原著や総説だけでなく、健診に役立つ連載企画や、学術大会で行なわれた各種講演、研修会の内容も解りやすく掲載しています。『総合健診』誌に掲載された論文は、独立行政法人科学技術振興機構(JST)の「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)を通じて世界に向けて公開されており閲覧数は順調に伸びています。皆様もぜひご活用ください。



編集委員会委員長より

編集委員会の構成は、私委員長と2名の副委員長そして8名の委員の計11名で、専門分野はそれぞれ異なりますが、全員が各分野の第一線で活躍しており、平均年齢は59歳です。投稿頂いた論文は、編集委員と約100名の中から選ばれる査読委員で評価が行われる2名チェック体制で、コメントは編集委員監修のもと査読者分が返される形式を取っています。そして年間を通して最も優れた和文と英文の各1編については、「優秀論文賞」が贈られ、学術大会で表彰されます。ぜひ多くの方々のご投稿をお待ちしています。



東海大学医学部基盤診療学系健康管理学
領域主任教授
東海大学医学部付属東京病院
病院長・健診センター長
西崎 泰弘

| 研修会

有益な情報提供の場として各種研修会を開催しています。詳細な開催情報は、募集時期になりましたら学会ホームページに掲載します。

2019年度研修会予定

研修会名	開催日(2019年)
実查講習会	2月 1日(金)
指導士・業務管理士研修会	2月 2日(土)
人間ドック健診専門医研修会	2月 2日(土)
人間ドック健診専門医研修会	5月26日(日)
精度管理研修会	6月22日(土)
産業医支援研修会	7月 7日(日)
データヘルス研修会	7月27日(土)
優良施設認定基準研修会・ 実査委員研修会	9月 8日(日)

| 学術大会の開催

本学会では昭和48年(1973年)11月に東京の機械振興会館で第1回大会を開催して以来、毎年1回、学術大会を開催しています。学術大会では、毎回、大会テーマに沿った特別講演、教育講演、シンポジウム等様々なプログラムが用意されており、総合健診の最新情報を提供とともに、発表や討論を通じて、健診に携わる多くの職種、業種の方々の交流の場となっています。

次回大会予定

日本総合健診医学会 第48回大会

メインテーマ

予防で築く健康長寿社会－食・栄養と総合健診

大会長

高橋 敦彦
(日本大学短期大学部 教授、食物栄養学科 学科長)

会期

2020年2月7日(金)～2月8日(土)

会場

京王プラザホテル(東京都新宿区)



日本総合健診医学会メールマガジン・Facebookについて

本学会では学術大会や研修会等のお知らせや健診に関する役員コラムを、毎月1回、メールマガジンとして配信しています。メールマガジンは会員以外の方もご登録いただけますので、本学会の活動に関心をお持ちの方はぜひ本学会ホームページよりご登録ください。また、学会Facebookでも研修会や学術大会の様子、優良総合健診施設の紹介等を掲載しているので、是非アクセスしてみてください。

| 入会について

本学会では健診に携わる様々な職種の方にご入会いただいています。新たに入会を希望される場合は、本学会ホームページから入会届をダウンロードして、学会事務局までFAXまたは郵送でお送りください。なお、個人会員は学会ホームページからオンラインでも入会申し込みが可能です。

会員種別	概要	年会費	
正会員・一般会員 (個人会員)	本学会の目的や活動に賛同する医師及び医師以外の個人の方が対象です。	10,000円	・本学会事業年度は、12月1日から11月30日です。 ・入会は随时受付しておりますが、年度ごとに会費全額の納入が必要です。
施設会員	総合健診システムを運営する施設が対象です。	70,000円	・年会費には本学会学会誌(年6冊)が含まれています。会員の皆様には発行後にお届けいたします。
購読会員	学会誌の購読のみを目的とした団体または法人が対象です。	12,000円	
事業維持会員	本学会の目的に賛同する団体または法人が対象です。	1口 (20,000円)	

●特定健診・特定保健指導

集合契約Aへの参加(施設会員対象)

本学会施設会員は、本学会を「取りまとめ機関」として右の保険者との特定健診・特定保健指導の集合契約Aを委託契約することができます。集合契約Aをご希望の場合は学会事務局までお問い合わせください。

<集合契約A参加予定代表保険者>

「健康保険組合連合会」「全国健康保険協会・船員保険会」「日本私立学校振興・共済事業団」「一般社団法人共済組合連盟(国家公務員共済組合)」「岩手県市町村国保」「宮城県市町村国保」「福島県市町村国保」「全国土木建築国民健康保険組合(※委託範囲は特定健康診査のみ)」

●会員数

2019年4月1日時点

会員種別	個人会員		施設会員		事業維持会員	購読会員	会員数総合計
	正会員	一般会員	優良総合健診施設	その他			
会員数	1814	332	272	137	15	3	2573

一般社団法人 日本総合健診医学会 The Japan Society of Health Evaluation and Promotion

事務局 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1丁目31-10 セシア千駄ヶ谷ビル2階
TEL:03-5413-4400 / FAX:03-5413-0016 / URL:<https://jhep.jp/>

目的 本法人は、国民の疾病予防、健康維持、増進を通じて、一人ひとりにとっての生活の満足度を充足した健康寿命の延伸を図り、総合健診をはじめとする各種の健康診査、健康評価の方法、および健康予測の研究を行い、これらを健康教育に有効に活用して、国民の健康保持と増進に貢献することを使命とするものが相互に情報交換を行い、かつ交流を深めることを支援することを目的としています。

事業

1. 学術大会の開催(年1回)
2. 学会雑誌「総合健診」 ISSN 1347-0086
英文名:Health Evaluation and Promotion
(略称:HEP) およびその他の刊行物の発行
3. 優良総合健診施設の認定
4. 人間ドック健診専門医、総合健診指導士、総合健診業務管理士の認定
5. 精度管理調査の実施(年4回)
6. 各種研修会・講習会の開催
7. 健診団体連絡協議会・日本人間ドック学会など関連学会・学術団体への協力
8. 日本学術会議の登録学術研究団体としての諸活動
9. 統計事業(受診者統計指標などの作成)
10. 日野原重明賞・優秀論文賞・若手奨励賞等の表彰事業、学術奨励助成事業
11. 国際健診学会の事務局業務



発行日:2019年4月30日